

内モンゴルにおける情報モラル意識の現状 —インターネット依存との関係—

The current state of information literacy education in Neimenggu

フスルト、野崎浩成（愛知教育大学）

本研究では、内モンゴル（中国）の中高生・大学生および、日本人大学生を対象に、情報モラル意識とインターネット依存度との関係を調査した。その結果、日中間で比較すると、インターネット依存度に有意差がみられ、内モンゴルの大学生が日本人よりも有意に高いこと、インターネット依存度が低い群の方が、情報モラル意識が全体的に高いこと、などが明らかになった。

キーワード：インターネット依存度、情報モラル、日中国際比較

1 はじめに

情報モラルについて基本的な考え方は、日常のモラルと変わらない。日常のモラルで「していけないこと」は情報モラルでも「していけない」である。情報モラル課題については情報発信の場面でプライバシーの保護、人権・著作権の尊重、情報発信に伴う責任のことをいう。本研究では安藤（2010）より、①情報社会の倫理、②法の理解と遵守、③安全への知恵、④情報セキュリティ 4つの内容に注目することにした。

2 研究の背景と本研究の目的

2.1 研究の背景

内モンゴル自治区では中学校から寄宿生になる学生が多い。そして2003年から2007年まで全国の学生たちのインターネット利用の割合が54%~91%になった。インターネット利用の割合が急増加しているため、インターネットでの危険も増えることが考えられる。

2.2 本研究の目的

本研究の目的は中国内モンゴル中・高・大学生の情報モラル現状を明らかにすることである。そして、情報モラルとインターネット依存度の関係を調査する。インターネット依存度が高くなっている若者たちの情報モラル意識の成長がどの程度になっ

ているだろうか。本研究での調査を通じてこのような点を明らかにする糸口を得たい。

3 インターネット依存度と情報モラル意識の関係について調査

3.1 調査方法

3.1.1 調査用紙

インターネット依存度を測る調査用紙は「日本人大学生のインターネット依存傾向測定尺度作成の試み」（鄭 艶花 2007）より引用した調査用紙を用いる。

情報モラル意識を測る調査表紙は「計画的に取り組む情報モラル指導」（安藤 2010）より引用して、中国向けに作成した調査用紙を用いる。

3.1.2 調査対象

調査対象者としては、内モンゴルの師範大学47人、内モンゴルウランホト第二中学校の高校生50人、中学生48人、そして、愛知教育大学40人である。

3.1.3 調査手順

調査対象者となった学生に調査用紙を配布し、回答を依頼した。

3.1.4 調査時期

10月7日から10月20日までに内モンゴルの学生の調査を行った。11月11日、愛知教育大学の学生に調査を行った。

3.2 結果と考察

3.2.1 インターネット依存度と情報モラル意識についての分析

日本人大学生のインターネット依存度の高群と低群を比較した所、両者には、情報モラル意識にはあまり差が見られないことが示された。その一方で、内モンゴルの中学生・高校生・大学生のインターネット依存度の高群の情報モラル意識(①情報社会の倫理)が低く、インターネット依存度の低群の情報モラル意識(①情報社会の倫理)が高いということをつかかった。

3.2.2 情報モラル意識の4つの下位尺度の相関関係についての分析

情報モラル意識の4つの下位尺度について、相関関係を分析した所、内モンゴルの大学生では、①情報社会の倫理と③安全への知恵、②法の理解と遵守と③安全への知恵、それらについて中程度の相関がみられた。

3.2.3 インターネット依存度と依存項目についての分析

内モンゴルの学生がインターネットを遊びで利用する場合(チャット、ゲーム、音楽と映画)を選んだ人が多い。しかし日本人の大学生がインターネットを遊びで利用する場合では(音楽と映画)だけが多い。

3.2.4 生徒たちのインターネット利用カテゴリーの割合

内モンゴルでは76%の学生がインターネットを遊びのため使っている。ただ、内モンゴルの学生のうち17%の学生がインターネットを学習のため使っている。

3.2.5 t検定の結果

日本と内モンゴルの大学生のインターネット依存度の平均と標準偏差を示した

(表1)。t検定の結果、インターネット依存度の平均値には有意差がみられた($t(83) = 4.93, p < .01$)。よって、表1より、インターネット依存度は、内モンゴルの学生のほうが日本人よりも有意に高いことが示された。

表1 日本と内モンゴルの大学生のインターネット依存度の平均と標準偏差
インターネット依存度**

日本人	平均点	標準偏差
(n=40)	97.2	31.2
内モンゴル	平均点	標準偏差
(n=47)	133.7	36.4

** $p < .01$

4 まとめと今後の課題

本研究では、日本人大学生40人、内モンゴル師範大学の大学生47人、内モンゴルの高校生50人、内モンゴル中学生48人を対象に、インターネット依存度と情報モラル意識の関係について調査した。さらに、日本人大学生と内モンゴル大学生との比較を行った。これにより、内モンゴルの学生たちの情報モラル意識を明らかにすることができた。インターネット依存度が高い群は情報モラル意識が高いと予想された。しかし、本研究で行った調査結果を分析したところ、内モンゴルの大学生ではインターネット依存度が高い群は情報モラル意識が低いという結果が得られた。

今後の課題として、インターネット依存度が高くなっている者に対して、依存症を解決する方法について教育することである。今回は、日本と内モンゴルの比較調査を行ったが、今後は日本と中国以外の諸外国についても比較調査を行うことが今後の課題である。